

財務・非財務ハイライト

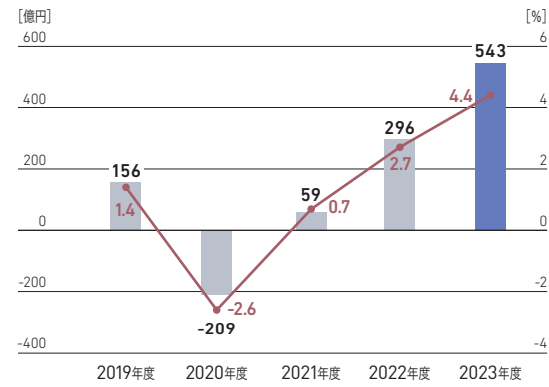
三越伊勢丹ホールディングスのウェブサイトには、下記以外の非財務情報を掲載しています
<https://imhds.disclosure.site/ja/themes/138>



財務ハイライト

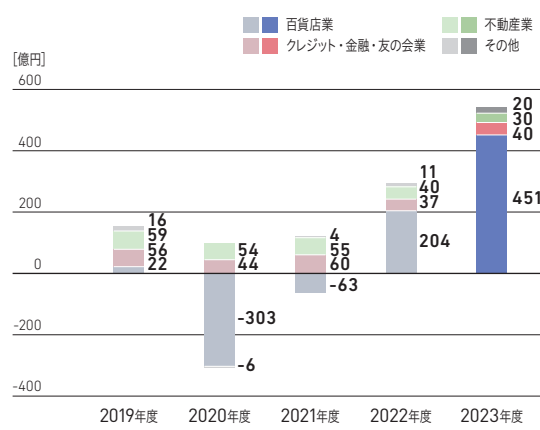
営業利益と総売上高営業利益率

※2020年度以前の営業利益率は、収益認識基準適用前の売上高に基づき計算



2023年度の営業利益は、統合後最高益となる543億円となりました。また、総売上高営業利益率は、「百貨店の科学」による販管費コントロールが奏功し、4.4%に改善しました。

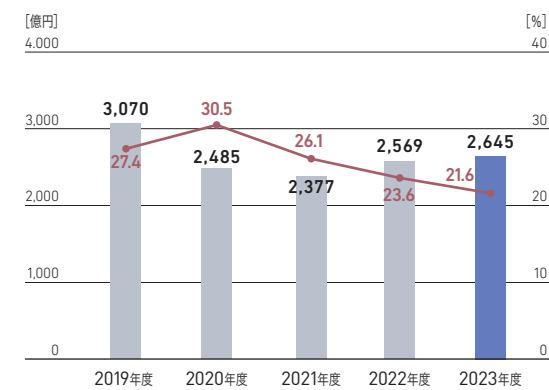
営業利益(セグメント別)



2023年度は、百貨店の再生フェーズの進展とともに、百貨店業の営業利益が大きく伸長しました。クレジット・金融・友の会業および不動産業についても、安定した利益水準を継続しています。

販管費と総売上高販管費率

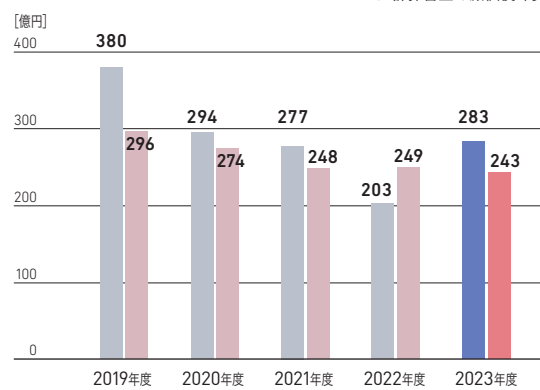
※2020年度以前の販管費率は、収益認識基準適用前の売上高に基づき計算



2023年度の販管費は、物価高等の影響を受けながらも、「百貨店の科学」による販管費コントロールが奏功し、総売上高販管費率は前年度と比較し2ポイント改善しました。

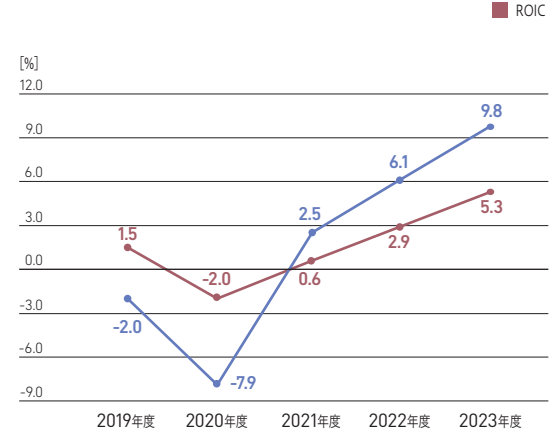
設備投資額と減価償却費※

※CF計算書上の減価償却費



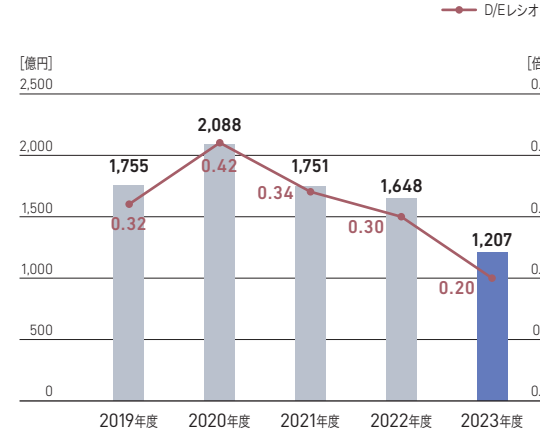
設備投資は、店舗モデル、保有不動産維持、システム投資を中心に計画的に実施しています。2023年度は、キャッシュ・フローを圧迫しない水準(減価償却費と同程度)で実施しました。

ROEとROIC



2023年度のROICは、営業利益の伸長に伴い5.3%に改善しました。またROEは、ROICの改善に加え、自己株式取得を含めた株主還元拡充等により9.8%となりました。

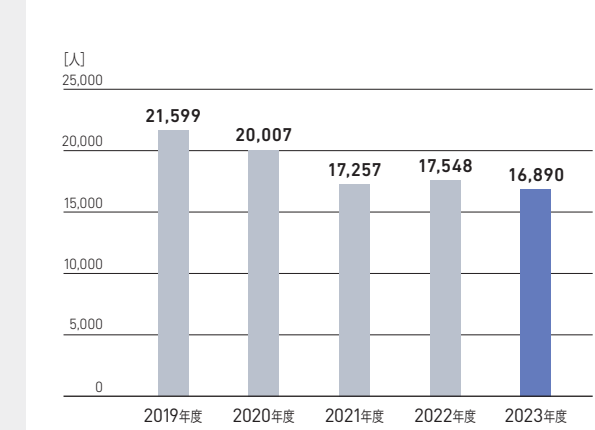
有利子負債とD/Eレシオ



2023年度の有利子負債は、キャッシュ・フローの改善に伴い、前年度と比較し約400億円縮減しました。その結果、D/Eレシオは0.2倍に低下し、財務健全性がさらに向上しました。

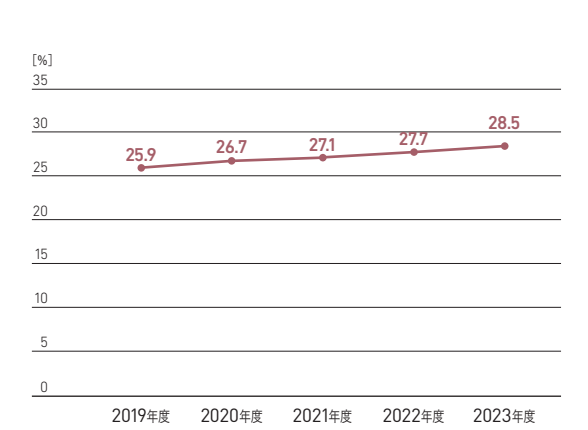
非財務ハイライト

連結グループ従業員数



計画的な要員政策により要員数は縮減。業務改革やDX化を推進することでさらなる生産性向上を図っていきます。

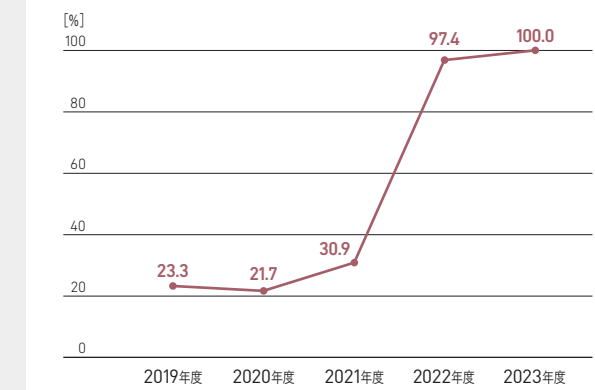
女性管理職比率((株)三越伊勢丹) ※課長相当級以上



両立支援制度の拡充等、さまざまなライフステージにおいても働き続ける環境を整えることで、女性管理職比率は年々増加。

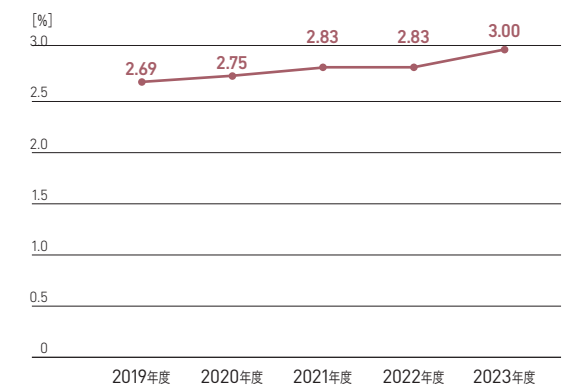
男性育児休業取得率((株)三越伊勢丹)

※2022年度のみ育児目的の休暇の実績を含んでいます



男性育児休業取得率100%に向けて、継続的な対象者への啓蒙を実施。引き続き風土醸成と取得促進に取り組んでいきます。

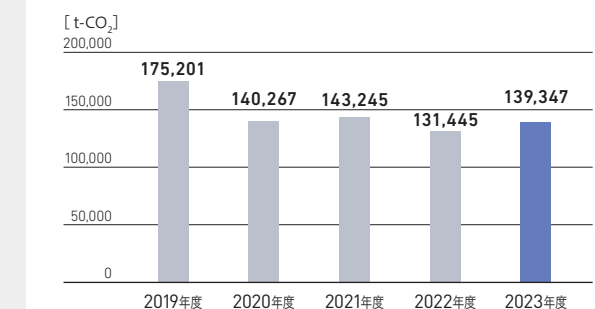
障がい者雇用比率((株)三越伊勢丹および首都圏主要グループ会社の合計)



障がい者雇用率は2023年度は3.0%と法定を上回る雇用を実現。引き続き多様な従業員の活躍機会確保に努めていきます。

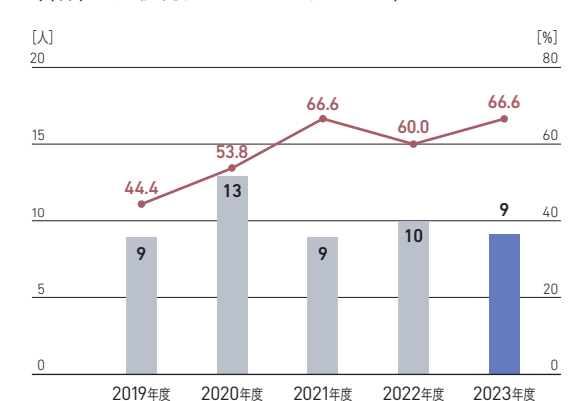
温室効果ガス排出量(Scope1,2)

※Scope2はマーケット基準
 ※パウンダリは(株)三越伊勢丹ホールディングス、国内グループ百貨店、(株)三越伊勢丹の所有ビル(テナント貸を含む)
 ※2023年実績は第三者検証前の速報値



売上・客数の回復と再生可能エネルギーの調達量減少により直近年の排出量は増加しましたが、調達計画の見直し等、2030年中期目標達成に向けロードマップの精緻化を進めています。

取締役員数/社外取締役比率((株)三越伊勢丹ホールディングス)



取締役の人数は、取締役会の機能が効果的・効率的に発揮できる人数として定款で「15名以内」と定め、客観性・透明性が高い監督機能を発揮するため、社外取締役が過半数の構成としています。